

GDP Now 発表タイミングとトレンド

GDP Now は足元の GDP 動向を推定する指標であり、速報性が大きな特徴となっている。そうした速報性は株式市況の説明変数として大きな利点となる。また、経済指標発表日に株価が一定方向の動きをするのであれば、発表頻度の高い GDP Now は、アノマリーとしての価値も大きい。こうした観点の下、本稿では、GDP Now の値が過去の平均値から乖離している場合、その後の株価動向にどのような影響を及ぼすのか、という点や GDP Now の発表日に株価が特定の方向に動く傾向がみられるのかどうか、といったカレンダー効果の有無について検証した。

(1). はじめに

一般に、経済のファンダメンタル・データは発表までに時間がかかることから、金融市況の予測には利用しにくい。特に、GDP データは構成要素なる各種データが発表されたのち、計算が可能となるため、公表は非常に遅くなる。こうしたデメリットを緩和するために開発された指標が、GDP Now である。GDP Now は直近までに発表された経済指標を基に、足元の GDP 動向を推定する指標であり、速報性が大きな特徴となっている。従来、GDP は3か月に1度の発表であったため、短期的な動きは把握できなかったが、GDP Now が開発されたことで、短期的な変動を把握できるようになった。このような短期的な変動は、株式市況に反映されていると考えられる。

(2). GDP Now の順張り効果

図1は、GDP Now の推移とその75日移動平均を比較したグラフである。GDP Now は短期的に変動の大きなデータであることが分かる。GDP Now の値が過去の移動平均よりも上振れている際には、経済状態が過去平均より好調であることを示すものと解釈できる。

図 1. GDP Now の推移

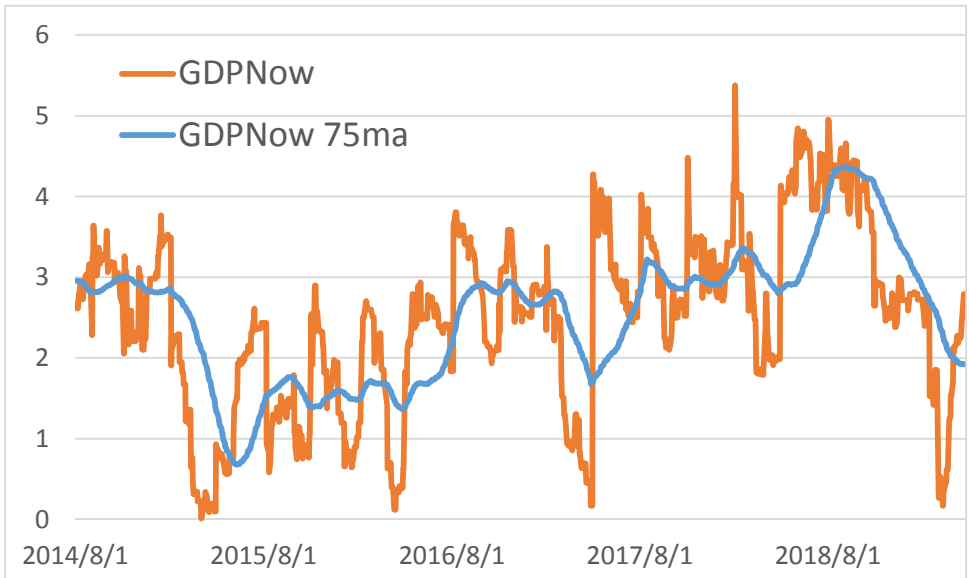
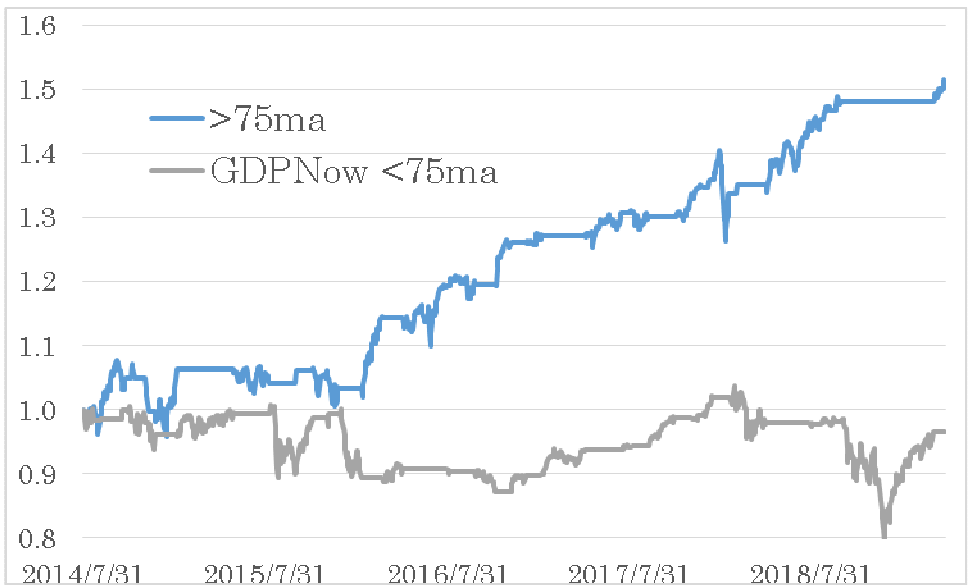


図 2. GDP Now 発表日・非発表日の株価パフォーマンス



この解釈を基に、GDP Now が 75 日移動平均よりも上にある時のみ株式を保有するという投資戦略（以下、「GDP Now 順張り戦略」）を考え、図 2 にそのパフォーマンスを示した。移動平均より上の局面では株価は上昇しやすく、移動平均よりも下の局面では株価は下落しやすいことが分かる。

(3). GDP Now のカレンダー効果

次に、GDP Now の発表日自体にカレンダー効果があるのかどうか、確認した。図 3 左では GDP Now の発表日のパフォーマンスと、それ以外の日のパフォーマンスを比較した。過去 5 年の通期で見ると、GDP Now 発表日のパフォーマンスは好調ではあるが、当初 2 年間の好調に支えられている面が大きいいため、カレンダー効果がそれほど明瞭だとは考えられない。ただし、GDP Now 発表日とテクニカル分析を組み合わせることで、安定的なリターンが得られる。図 3 右に示したように、GDP Now 発表日には順張り戦略を組み合わせると効果的で、逆に GDP Now の非発表日には逆張り戦略を組み合わせると効果的なようだ。両者を合わせて、「GDP Now カレンダー効果」と呼ぶこととする。

図 3. GDP Now 発表日・非発表日の株価パフォーマンス

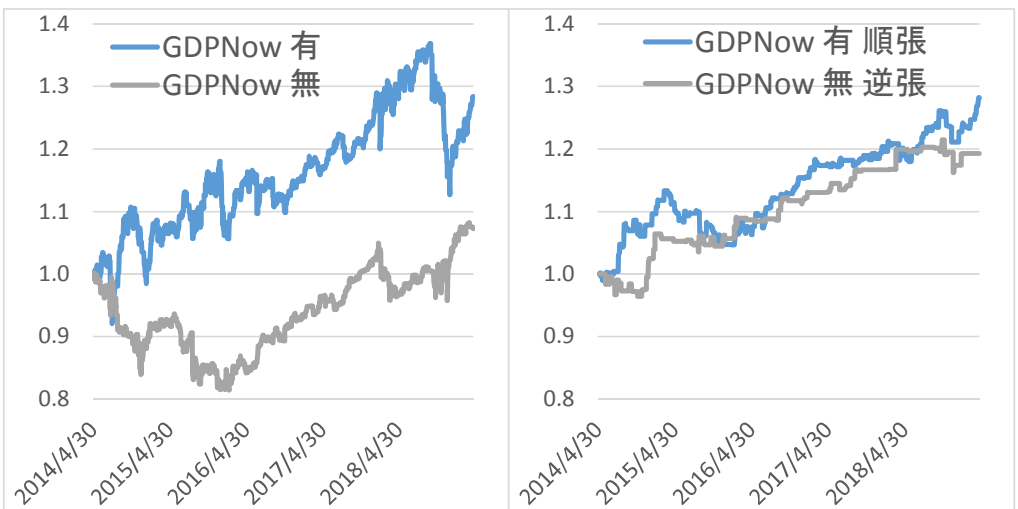
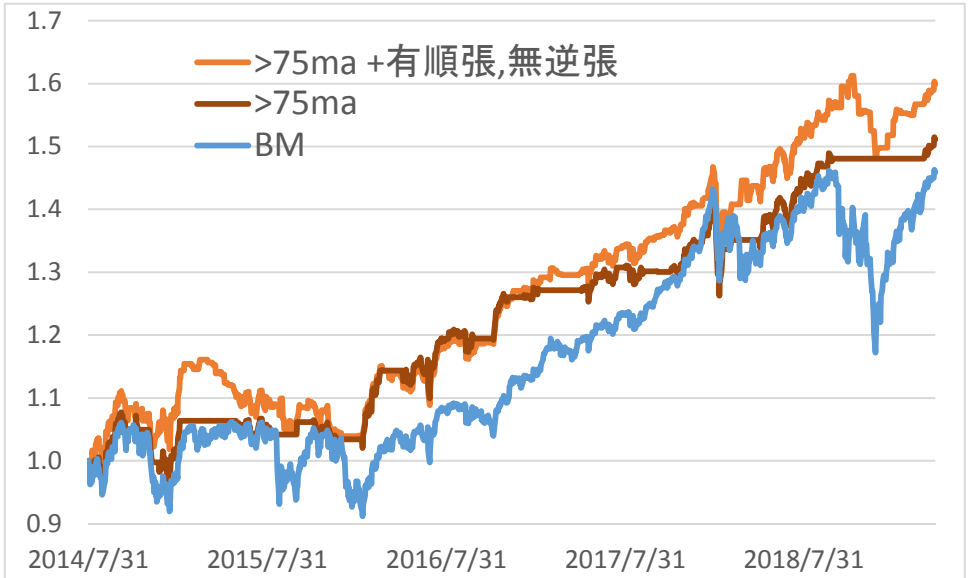


図 4. 順張り戦略およびカレンダー効果の併用



これらの分析を基に、「GDP Now 順張り戦略」および「GDP Now カレンダー効果」を併用することで、投資成果が高まるかどうか確認する。図 4 に投資成果を載せたが、両戦略の併用はリターン向上につながる模様だ。

(4). まとめ

以上、本稿では、GDP Now の値が過去の平均値から乖離している場合、その後の株価動向にどのような影響を及ぼすのか、という点や GDP Now の発表日には株価が特定の方向に動く傾向がみられるのかどうか、といったカレンダー効果の有無についても検証した。本稿の分析によれば、GDP Now の値自体に順張り効果が働くことや、GDP Now の発表日にはある程度のカレンダー効果が働き、テクニカル分析と併用することで効果が高まること、などが判明した。こうした効果を利用することで、投資成果の向上が期待される。